

韓国・社会福祉法人明暉園は、梨本宮方子女王が創始者。

梨本宮（なしもとのみや）は、伏見宮貞敬親王の王子、守脩（もりおさ）親王が創設した宮家。

守脩親王は、文政2年（1819年）に誕生。天保4年に親王宣下。円満院に入る。出家し覚諄入道親王と称した。天保6年に梶井円融院を相続し、昌仁入道親王と改名した。明治元年に還俗し、明治3年に梶井宮と称していたのを梨本宮と改称した。

守脩親王には、子が無かったため、山階宮家から菊麿王が入り、明治14年に宮家を継承した。その後、明治18年に山階宮に復帰した。菊麿王の後を継いだのが久邇宮朝彦親王の王子、多田（ただ）王で、相続にあたって守正（もりまさ）王と改名した。

守正王は、明治8年（1874年）誕生。陸軍士官学校卒業、明治36年にフランス留学。これに先立つ、明治33年に鍋島直大侯爵の二女伊都子と結婚。方子女王、規子女王の2女をもうける。

長女の方子女王は李氏朝鮮最後の皇太子で後に李王家を継承した李垠（イ・ウン）と結婚し、戦後は大韓民国に渡り、福祉事業などに尽くした。